

盛岡構想区域における地域医療構想に係る具体的対応方針 集計（病院）

※令和7年度7月1日時点

議題(1)資料1-2

No.	医療機関名	救急告示／二次救急	許可病床（一般・療養）					病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性
			許可			最大使用病床	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	介護医療院			
			一般	療養	計										
1	岩手医科大学 附属病院	救急告示／二次救急	2025 (R7) 調査	905 (892)	0	905 (892)	896	880	0	0	25	905	0	内、消内、肝内、糖・代、循内、内分泌、腎内、呼内、心療、アレ、血・腫、神内、老内、外、消外、肝外、乳外、小外、気管食道外、脳外、呼外、心外、整形、リハ、リウ、形成、頭頸部外、美外、産婦、小児、耳鼻咽、眼、皮、泌、放診、放治、麻、精、児精、救急、臨床検査、病理、緩和、歯、矯正、小歯、歯外 ・特定機能病院であり、岩手県高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター等の機能を有しており、「高度急性期病床」を中心としている。 ・5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）に対応する診療科を備えているほか、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を担っている。 ・5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児（救急）医療）については、高度救命救急センター、災害拠点病院、総合周産期母子医療センターの指定を県より受け、活動している。 ・中核病院として地域の医療機関と連携パスを共有し、がん治療に関する連携体制を取っている（がん治療連携計画策定料）他、感染防止対策における他医療機関とのカンファレンス等、多方面の地域連携の取り組みを実施している。	・岩手県唯一の特定機能病院として高度急性期の役割・機能を担い、人口減少や物価高騰など厳しい状況下と限られた医療資源の中で今後も当該機能を発揮していくため、令和8年度に附属内丸メディカルセンターの診療機能を附属病院に集約する。病床数については、今年度7月～10月にかけて段階的に1000床から950床まで削減を行った（一般40床、精神10床）。今後も継続してスタッフの負担軽減ならびに効率的で高回転な病床運用を目的とした病床数の適正化、運用の再構築を行い、国の医療政策に沿った持続可能な診療体制を整備する。 ・今後地域の医療機関と機能に応じた一体的な病床運用が必要になると考えられることから、医療連携協定の締結など各医療機関との連携体制の強化を図っていく。
			2026 (R8) 予定					786	0	0	25	811	0		
2	内丸メディカルセンター	救急告示／二次救急	2025 (R7) 調査	50	0	50	33	0	50	0	0	50	0	内、消内、肝内、糖・内、循内、内分泌、腎内、呼内、心療、アレ、神内、老内、外、消外、肝外、乳外、気管外、脳外、整、リハ、リウ、婦人、耳鼻、眼、皮、泌、臨検、歯科、矯正、小歯、歯科口腔 ・外来は、岩手医科大学の附属センターとしての特性を生かし、専門科による迅速な検査・診断を行う高度な外来機能を持った医療機関。また、患者を総合的に診るプライマリケアにも力を入れている。 ・入院は、日帰りや短期入院、短期滞在手術などを中心に行っている。	・当センターは、今年度をもって歯科及び一部の医科（婦人科、総合診療科）を除いた診療機能を、矢巾地区の附属病院へ移転・統合し、医療資源を集約することとしている。移転・統合後も、大学附属の診療所として、岩手医科大学附属病院と連携しながら高度専門医療の提供を行っていく。
			2026 (R8) 予定	令和8年3月末で病床 廃止											

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可		最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院				
			一般	療養											計
3	岩手県立中央病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	685	0	685	579	322	257	0	0	579	0	<p>内、血内、腎・リウ、糖・内、消内、消外、外、乳・内分、放、麻、精、呼内、循内、小、心外、整形、形成、脳外、皮、泌、産、婦、眼、耳、呼外、小外、脳内、リハ、歯口腔外、病理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院のセンター病院として、全県を対象とした救急医療や高度・専門医療等の高度急性期医療を中心に提供 ・ 地域がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療、緩和ケアを提供 ・ 地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療の提供、地域の医療従事者に対する研修会の実施 ・ 地域周産期母子医療センターとして、比較的高度な周産期医療を提供 ・ 医師の不足する地域への診療応援などを実施 ・ 臨床研修病院として、臨床研修医（医科・歯科）及び新専門医制度の専攻医を受入れ ・ 地域災害拠点病院として、DMATの派遣や被災地の重症傷病者を受入れ ・ 県内4カ所目の救命救急センターとして、地域における救急医療を提供 	<p>【基本方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県立病院全体のセンター病院としての機能を担い、全県を対象とした救急医療や高度・専門医療等、高度急性期医療を提供 <p>【主な役割・機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援病院として、紹介患者の積極的な受入れ、地域の医療従事者に対する研修の開催など、かかりつけ医等への支援・連携を強化 ・ 医師の不足する地域への診療応援など、地域医療支援を強化 ・ 臨床研修病院及び専門研修における基幹施設として、臨床研修医及び専攻医を受入れ ・ 地域がん診療連携拠点病院として、高度・専門的ながん医療及び緩和ケアを提供 ・ 心血管疾患医療圏（盛岡）において、専門的な心血管疾患医療を提供 ・ 地域周産期母子医療センターとして、周産期にかかる比較的高度な医療を提供 ・ 小児地域医療センターとして、小児専門医療を提供するとともに、入院小児救急医療における輪番病院として、小児救急医療を提供 ・ 救命救急センターとして、三次救急医療及び地域における救急医療を提供 ・ 地域災害拠点病院として、災害発生時の災害派遣医療チームの派遣や被災地内の重篤救急患者の受入れを実施 ・ へき地医療拠点病院として、へき地診療所への医師派遣等の支援を実施 ・ 流行初期医療確保措置協定締結医療機関として、新興感染症に係る入院医療等を提供
			2026 (R8) 予定					322	257	0	0	579	0		

No.	医療機関名	救急告示／二次救急	許可病床 (一般・療養)			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性
			許可		最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
			一般	療養										
4	盛岡赤十字病院	救急告示／二次救急	2025 (R7) 調査	346	0	346	239	0	270	0	22	292	内、血内、精、脳内、呼内、消内、循内、小、外、小外、消外、緩和、整形、脳外、皮、泌、産婦、眼、耳、放、麻、リハ、病理 ・地域災害拠点病院として、東日本大震災と平成28年台風10号災害で傷病者を受入れるとともに、被災地に救護班を派遣し診療にあたった。また近年では、令和6年能登半島地震において救護班5班、コーディネートチーム2班を派遣し、令和7年大船渡山林火災において救護班1班、コーディネートチーム1班、こころのケア班2半を派遣した。 ・地域医療支援病院として、医療機関や介護・福祉施設等と連携し、紹介患者や救急患者の受入れに務めている。 ・地域周産期医療センターとして、比較的高度な周産期医療を必要とする患者を受入れている。 ・臨床研修指定病院として、医師の育成に務めている。 ・第一種及び第二種協定指定医療機関として医療措置協定を締結しており、新興感染症の発生・まん延時の医療提供体制の整備を行っている。 ・患者紹介体制の強化のため令和7年11月に岩手医科大学附属病院、盛岡市立病院と医療連携協定を締結した。 ・令和6年度は1851件の救急車を受入れ、がん診療では、801件がん登録をした。	当院は、救急医療及び地域医療連携に一層注力し、今後も「急性期」を継続する予定です。 2020年10月に病床数を40床削減し、2024年2月に休床病床44床の削減を行った。 2025年4月より1病棟54床を休床としたが、今後の医療連携協定による影響や圏域内医療需要の動向により対応を検討します。
			2026 (R8) 予定					0	324	0	22	346		
5	盛岡市立病院	救急告示／二次救急	2025 (R7) 調査	180	0	180	160	0	105	0	0	105	内、脳内、呼、消、循、糖・代、腎、外、整、脳外、皮、泌、婦、眼、放、麻、精、齒 ・少子高齢化社会の医療に対応するため、病床区分の考え方を「高度急性期・地域包括期・慢性期（日本慢性期医療協会会長武久洋三氏提唱）」という分類の中で、当院は地域包括期である亜急性期～回復期を担い、地域包括ケアシステムを推進している。 ・さらに、医大移転後の初期救急の受入れの充実とともに、身体合併症のある精神神経症等患者を積極的に受入れている。 ・感染症指定医療機関として、支援病院や岩手県の支援を受け、新型コロナウイルス感染症に積極的に対応している。	・高度急性期を担う大規模病院が対応しきれない、地域に密着した生活支援型の医療を引き続き提供する。 ・医師会や他の医療機関と連携し、初期及び二次救急病院として、積極的に救急医療を提供する。 ・感染症病床を有する病院として、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症医療を提供する。 ・政策医療として、認知症のほか、身体合併症を有する精神疾患患者を受け入れていく。 ・医師（研修医を含む）や医療技術者等の研修・養成支援を通じた人材育成を行いながら、医療の質を高め、良質な医療を提供する。
			2026 (R8) 予定					0	105	0	0	105		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
			一般	療養	計										
6	栃内病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	90	0	90	90	0	90	0	0	90	—	<p>内、外、整外、脳外、形、リハ、麻</p> <p>・標榜診療科の中でも、整形外科領域の急性期医療に特化した医療機関であり、手術件数は年間約1,300件である。</p> <p>・救急告示病院、二次救急医療機関として圏域内を中心に救急患者を受け入れている。</p> <p>・日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本手外科学会研修施設の認定施設、また岩手医科大学整形外科学講座臨床実習病院となっており高度臨床実習に係る学生を受け入れ指導を行っている。</p> <p>・新専門医制度研修連携施設であり医師の育成にも寄与する予定である。</p>	<p>●地域において担うべき役割として、現病院の機能を継続することを中心に以下の役割を担う。</p> <p>①救急告示病院並びに二次救急病院を継続していくことの役割</p> <p>②整形外科領域の急性期病院としての役割</p> <p>③圏域の医療機関並びに介護・福祉関係機関との連携を更に推進し、1.5～2次患者を受け入れる役割。</p> <p>④365日体制でのリハビリテーション実施により、早期社会復帰を支援する役割。</p> <p>上記の役割を追求していくためにも、引き続き医師、看護師等人材の確保・育成に注力していく。 今後も地域医療構想を踏まえながら医療体制を検討していく。</p>
			2026 (R8) 予定					0	90	0	0	90	0		
7	盛岡医療生活協同組合川久保病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	60	60	120	120	0	60	60	0	120	—	<p>内・小・整外・眼・リハ・脳内・精・歯・小歯・歯外</p> <p>・二次救急病院の当番病院の役割を担っている。年間400件程度の救急車搬送を受け入れている</p> <p>・在宅療養支援病院として、訪問診療をおこなっている</p> <p>・協力型臨床研修病院として、研修を受け入れている</p> <p>・無料低額診療実施医療機関として、生計困難者の診療を受け入れている</p> <p>・急性期医療から慢性期医療、地域・介護をつなぐ役割を担っている</p> <p>・リハビリを含めた適切な医療を提供し、社会・在宅復帰に向けた様々な支援をおこなっている</p>	<p>・二次救急病院の維持</p> <p>・回復期機能(地域包括ケア病床)を担う</p> <p>・在宅医療の拡大</p> <p>・医療生協の病院として、生活と健康をまもる健康推進病院として、健康づくりへの取り組みを広める</p>
			2026 (R8) 予定					0	60	60	0	120	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
			一般	療養	計										
8	東八幡平病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	50	100	150	146	0	50	100	0	150	—	<p>脳外、内、消内、小、外、整、皮、放、リハ、歯、神内、呼内、リウ</p> <p>○地域に根ざした急性期・回復期医療を一体的に提供する医療機関として、脳血管疾患及び運動器疾患の治療を中心に、診療科横断の連携による地域リハビリテーションを推進している。</p> <p>○また、消化器（内視鏡）内科、リウマチ膠原病内科、小児科、歯科など多様な診療科を有し、地域住民にとって身近な「かかりつけ医」的機能を担っている。</p> <p>○救急告示病院として二次救急医療輪番体制に参画するとともに、リハビリテーションは365日提供を継続している。また、協力型臨床研修病院、在宅難病患者一時入院医療機関としても機能し、急性期から在宅までシームレス（切れ目ない）な支援体制を整備している。</p> <p>○加えて、訪問看護・訪問リハビリ・訪問歯科を実施し、退院後は外来・通所・訪問によりソフトランディングを目指した支援に努めている。また、法人内に老健、通所リハ、在宅介護支援センター等を有し、医療と介護を一体的に提供できる体制を構築している。</p>	<p>急性期・回復期医療に加え、在宅期まで一貫した地域リハビリテーションを提供する地域医療機関として、住民の生活と健康を継続的に支える体制を強化し、地域包括ケアにおける中核的役割を果たしてまいりたいと考えている。</p> <p>(1) 医療需要の変化への対応 人口減少・高齢化に伴う医療需要の変化を踏まえ、病床機能や病床数の最適化と診療体制の見直しを進める。</p> <p>併せて、救急医療体制を維持しつつ、急性期直後から回復期、生活期まで切れ目なくリハビリを提供することで、地域における急性期・回復期医療機能を一体的に確保する。</p> <p>(2) 切れ目のない医療・介護連携の強化 退院後の外来・通所・訪問による医療・歯科・看護・リハビリ・栄養の連続した支援体制をさらに強化する。</p> <p>また、介護老人保健施設や在宅介護支援センター等と連携し、在宅療養の支援や地域包括ケアの推進に努める。</p> <p>(3) 地域に選ばれる医療の提供 専門外来、小児科・歯科診療、がんリハビリ・摂食嚥下リハなど特色あるサービスの一層の充実を図る。健診・脳ドック等の予防医療を強化し、地域住民の健康増進に貢献する。</p>
			2026 (R8) 予定					0	50	100	0	150	0		
9	八角病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	50	0	50	50	0	30	20	0	50	—	<p>内、胃内、消内、肝内、内視内、糖代内、外、脳外、整外</p> <p>・総合内科専門医、消化器病の専門医を中心に地域のかかりつけ医として幅広い疾患を診療し、また50床の病床を高い稼働率で運用し、地域包括ケアシステムの構築を進めている。</p> <p>・盛岡北部圏域を中心に、二次救急医療機関として、365日24時間体制で救急患者を受け入れている。</p> <p>・消化器内視鏡専門医による内視鏡検査を積極的に行い、人間ドッグや企業健診、特定健診等の実施により病気の予防、及び早期発見に取り組んでいる。</p> <p>・肝疾患診療専門医療機関として、肝炎に対する治療や肝がんの早期発見、肝硬変の管理など肝疾患の診療を実施している。</p> <p>・基幹病院からのがん患者の受け入れ、緩和ケアを実施している。</p> <p>・在宅療養支援病院として、訪問診療を行い、緊急時の連絡体制及び往診体制をとっている。</p> <p>・透析患者の入院・外来診療を行っている。</p> <p>・関節疾患に対する整形外科手術を実施しており、専門性の高い医療体制を整えている。</p>	<p>・引き続き、総合内科として地域のかかりつけ医としての診療、及び二次救急医療機関として盛岡北部圏域を中心に、365日24時間体制で救急患者の受け入れを実施。</p> <p>・亜急性期機能を中心としつつ、在宅復帰に向けたリハビリや回復期機能（地域包括ケア病床）を担う。</p> <p>・在宅医療を充実させ、地域医療を担う。</p> <p>・保健予防活動（人間ドッグ・企業健診等）を強化し、病気の早期発見、早期治療につなげていく。</p> <p>・外科手術（腹腔鏡手術）を実施していく。</p>
			2026 (R8) 予定					0	30	20	0	50	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性		
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院	
			一般	療養	計											
10	栃内第二病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	144	0	144	126	0	44	100	0	144	—	内、神内、外、整形、脳外、リハ、麻、リウ、歯、歯外、呼吸器・アレルギー・膠原病内科	・岩手県保健医療計画に基づき二次保健医療圏として地域医療を基礎としながら主に脳血管疾患と運動器疾患の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟）を担う。 ・救急告示病院として地域の救急医療の一翼を担っている。	・岩手県保健医療計画に基づき二次保健医療圏として地域医療を基礎としながら主に脳血管疾患と運動器疾患の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟）を担う。新たに回復期機能（地域包括ケア病床）を追加担う。 ・救急告示病院として地域の救急医療の一翼を担う。 ・歯科、歯科口腔外科、（障がい者歯科）の開設に伴い、口腔ケアの推進、脳卒中発症後の口腔機能の回復、誤嚥性肺炎の予防に向けた専門的な口腔ケアなど、患者の予後の改善等を図る為、医科と歯科の連携による取り組みを行う。
			2026 (R8) 予定					0	44	100	0	144	0			
11	一般財団法人岩手済生会 中津川病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	51	0	51	40	0	24	27	0	51	—	内・呼内・循内・リハ	・地域包括ケア病床を有する機能強化型在宅療養支援病院であり、盛岡市街地北東に位置する数少ない有床病院として、地域包括ケアシステムの構築の実現に寄与している。 ・高度急性期病院で治療が行われた患者を転院で受け入れ、リハビリテーションを提供しつつ、家族やケアマネージャー（介護支援専門員）と協力して療養環境の整備を行い、在宅復帰支援を積極的に行っている。 ・地域の無床診療所における軽症から中等症の入院治療適応患者を積極的に受け入れ、地域における病診連携を推進している。 ・病院内に訪問看護ステーションを開設し連携することで、医療度の高い患者の在宅療養から在宅看取りまで対応している。	・地域包括ケアシステム構築と病診連携のさらなる推進。 ・訪問診療による在宅療養支援と訪問看護ステーションの拡充。 ・厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスガイドライン」に沿った看取りの提供。 ※令和8年3月1日に三田記念病院と統合予定。
			2026 (R8) 予定					0	24	27	0	51	0			
12	南昌病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	102	78	180	173	0	18	84	78	180	—	内、脳内、循内、外、整形、脳外、リハ	・早期在宅復帰のため、回復期リハビリテーションに積極的に取り組んでいる。 ・地域包括ケア病床を有し、ポストアキュート、サブアキュートの受入れ、在宅復帰や生活機能回復を支援している。 ・療養病棟では、継続治療を必要とする患者や神経難病等の治療を提供している。 ・盛岡南部地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、高齢者の介護予防等に関する研修、啓発活動等に努めている。	・現在の病床機能別の病床数は、2022年6月に急性期機能（急性期一般病棟）1床減床して18床に、回復期機能（地域包括ケア病床）を1床増床して24床としたものである。 ・回復期の医療機能をより一層推進し、リハビリテーションによる在宅復帰機能を強化していく。 ・医療、介護、福祉との連携強化を図り、必要とされる医療機能の整備に努める。 ・地域と連携・協働し、在宅患者への支援を行っていく。 ・入院患者の利用状況や地域のニーズに応じて病床再編を検討し、現在、1単位の療養病棟（18床）を地域包括病床へ転換する。
			2026 (R8) 予定					0	18	102	60	180	0			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性		
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院	
			一般	療養	計											
13	独立行政法人国立 病院機構盛岡医療 センター	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	250	0	250	218	0	55	51	131	237	—	内、呼内、脳内、 循内、消内、ア レ、リウ、小、 外、整外、泌内、 脳外、リハ、放、 麻、歯	・呼吸器・循環器疾患、骨・運動器疾患の急性期から回復期までの医療機能を担っている。 ・神経難病、結核、免疫異常（リウマチ・膠原病）の政策医療を担っている。 ・重度心身障害児（者）の慢性期医療、小児専門医療、盛岡市の小児救急輪番病院の役割を担っている。 ・二次救急病院の役割を担っている。（R6年度救急搬送1,148件） ・岩手県アレルギー疾患医療拠点病院	・呼吸器・循環器疾患、骨・運動器疾患の急性期から回復期までの医療機能、神経難病、結核、免疫異常（リウマチ・膠原病）の政策医療、重度心身障害児（者）の慢性期医療、小児専門医療を維持。 ・岩手県アレルギー疾患医療拠点病院として診療、情報提供、人材育成、研究、学校等への助言、支援の実施。
			2026 (R8) 予定					0	55	51	131	237	0			
14	医療法人社団松誠 会滝沢中央病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	40	46	86	86	0	0	40	46	86	—	内、外、婦、皮、 呼内、循内、糖 内、内視、総診、 乳外、アレ、リ ハ、整外	・一般、地域包括ケア、療養病床を有し、地域住民や介護施設からのサブアキュート機能、または急性期病院からのポストアキュート機能を行っている。 ・地域の介護施設（自法人を含む）との連携を図り、退院調整や入所中の健康管理等「かかりつけ医」としての役割を担う。 ・地域住民が安心して暮らせるよう外来診療以外にも公衆衛生を積極的に行っている。	・地域密着の病院として、回復期及び慢性期医療を提供する。 ・介護事業所との連携を密にして、高齢化社会における在宅及び施設での生活のバックアップを行う。 ・地域純民が安心して暮らせるよう、外来及び公衆衛生を提供する。
			2026 (R8) 予定					0	0	40	46	86	0			
15	社団医療法人盛岡 つなぎ温泉病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	50	120	170	168	0	50	48	72	170	—	内、呼内、アレ、 消内、循内、脳 内、糖内、外、整 外、脳外、リハ	・二次救急医療輪番病院としての役割を担っている。 ・専門的な呼吸器病治療（人工呼吸器40台以上常時稼働）を提供している。 ・リハビリテーションを365日実施している。 ・盛岡圏域新型インフルエンザ等医療体制における協力病院であり、岩手県在宅難病患者一時入院医療機関である。 ・協力型臨床研修病院として地域医療研修を実施し、初期臨床研修医を受入れしている。 ・在宅療養支援病院として、在宅医療を24時間体制でサポートし、終末期ケアを実施。	・急性期医療を中心としつつ、回復期機能・療養機能・在宅機能を担い、入院から在宅まで一貫とした、患者ニーズに沿った安心できる医療を提供する。 ・呼吸不全等による酸素療法・人工呼吸器管理・呼吸器リハビリを必要とする呼吸器疾患の総合的医療を各専門部門とチーム医療で専門的な呼吸器病治療を行う。 ・365日体制で質の高いリハビリを提供し、早期の社会復帰・在宅復帰を支援する。
			2026 (R8) 予定					0	50	48	72	170	0			
16	医療法人友愛会 盛 岡友愛病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	386	0	386	338	0	82	196	72	350	—	内、呼内、消内、 循内、脳内、心 内、肝内、外、呼 外、乳外、心外、 消外、肛外、緩和 ケア外科、整形、 形成、アレ、リウ、 泌、眼、耳、婦、 小、皮、リハ、放、 麻、歯、矯正、小 歯	・急性期、回復期リハビリテーション、慢性期（障害者）、緩和ケア、地域包括ケア病棟に透析センター、健診センターを併設し、疾病予防から終末期までを包括する。 ・高度急性期、急性期病院、地域のクリニックからの患者を受入れ、治療、リハビリテーションを通じて在宅復帰を支援する。	・透析センターと回復期リハビリテーション病棟（147床）を有する圏域唯一の病院として、受入れの強化と診療の質向上を図る。 ・脳卒中、循環器病対策基本法に基づいた健診、リハビリテーション、緩和ケアなどを推進する。 ・地域包括ケア病棟最大60床での稼働を目指し、サブアキュート機能を強化する。
			2026 (R8) 予定					0	82	196	72	350	0			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
			一般	療養	計										
17	医療法人青樹会内丸病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	60	30	90	80	0	60	0	30	90	—	内、消内、循内、 外、整形、リハ ・急性期一般病床、地域包括ケア病床、療養病床を有しており、軽度急性期から回復期、慢性期まで対応している。 ・訪問診療を実施しており訪問看護ステーションを併設。 ・介護老人保健施設、特別養護老人ホームの協力病院である。 ・救急告示病院である。	・在宅部門により力を入れ、引き続き在宅復帰を支援するポスト&サブアキュートを担う役割を継続していく。 ・医療・介護連携を基に訪問診療及び訪問看護を拡充し、患者様が安心して在宅や施設での療養を継続できるよう体制を整える。
			2026 (R8) 予定					0	60	0	30	90	0		
18	社団法人医療法人啓愛会 孝仁病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	124	56	180	180	0	0	124	56	180	—	内、整形、外、 婦、泌、リウ、乳 外、内分泌、皮、 漢方外来、緩和、 放 ・急性期医療機関の後方支援的な位置づけで、転院の受入れを積極的に行い、在宅医療へ繋げる役割をこなしております。	同左
			2026 (R8) 予定					0	0	124	56	180	0		
19	医療法人遠山病院	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	34	36	70	70	0	18	16	36	70	—	内・呼・循・糖・ 外・胃外・整・ 皮・婦 ・地域密着型病院として、訪問診療、健診・人間ドックから二次救急、急性期の医療一般病床及び回復期の地域包括ケア病床を持ち地域医療を行っている。法人内に多様な介護事業を持ち、退院後の自宅療養にも対応している。今後は、法人の訪問診療・訪問看護・訪問介護・通所リハ・居宅など在宅分野との連携を強化し、外来から入院及び退院後に適宜求められる医療介護を提供していきたい。	・急性期機能と共に、地域で不足すると見込まれる回復期機能（地域包括ケア病棟）を担う。 ・令和7年8月に、盛岡区域の病床数の適正化のため病床削減し、一般15床と地域包括ケア45床への転換をしている。 ・介護療養病床（66床）は、令和3年度に介護医療院へ転換済である。
			2026 (R8) 予定					0	15	45	0	60	0		
20	盛岡さんさ病院 (旧高松病院)	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	40	55	95	89	0	40	0	55	95	—	内、外、脳内、 整外、循内、麻、 リハ ～地域において「包括的な医療」を提供する～ ・周辺地域の住民・介護施設等より軽症から軽傷急性期の患者を受け入れる。 ・療養病床を有している事で、周辺医療機関からの受け皿として機能している。 ・在宅専任の医師、看護師により、24時間体制の訪問診療を提供している。	・在宅医療並びにリハビリ機能の充実化 ・患者構成や地域需要、病床機能計画の観点を基に、病床構成の再編を検討する（より地域で求められる機能への転換と体制強化へ向ける）
			2026 (R8) 予定					0	40	0	55	95	0		
21	いわてリハビリテーションセンター	救急告示 ／ 二次救急	2025 (R7) 調査	100	0	100	100	0	0	100	0	100	—	リハ、脳内、脳 外、整外 ・常勤医師6名中4名がリハビリテーション科専門医有資格者であり、岩手県の回復期リハビリテーション病棟の専門的役割を担っている。 ・退院患者を対象とし、外来リハビリの他、医療対象外となるが継続的リハビリ、看護が必要とされる対象者に対しては、実施施設が少ない等の理由のために介護保険での訪問リハビリ、訪問看護及び通所リハビリを実施のフォローアップも実施している。	・回復期リハビリテーション病棟を中心として運営していくが、今後、必要に応じて障害者病棟についても検討していく。
			2026 (R8) 予定					0	0	100	0	100	0		

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院				
			一般	療養	計											
22	八幡平市立病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	60	0	60	53	0	0	60	0	60	—	内、外、小、整、 リウ	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県地域医療構想を踏まえ、地域包括ケア病床を継続し回復期と在宅医療の推進に向けた役割を担う。 ・急性期から回復期へ切れ目のない医療を提供するため、急性期患者が多い県立中央病院などと連携している。 ・在宅療養者支援のため、訪問診療、訪問看護を実施。 ・救急告示病院として、休日、時間外を含め救急搬送を受け入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域には急性期の大規模病院が集積しているため、手術後の経過観察の受け皿となる病院施設の体制が必要。その後方支援として、回復期の紹介患者を受け入れる。 ・地域の医療ニーズに対応するため、専門外来の充実と在宅療養者の支援体制の強化により、地域完結型医療を目指す。
			2026 (R8) 予定					0	0	60	0	60	0			
23	荻野病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	58	0	58	58	0	0	58	0	58	—	内、リハ	<ul style="list-style-type: none"> ・外来では、地域のみなさまが気軽に相談できる「かかりつけ医」を目指しています。 ・入院病棟では急性期を脱した回復期のリハビリを中心に行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ますます進む超高齢化社会に向けて、障害をお持ちの患者さんやご高齢の患者さんの自立度をアップするお手伝いに尽力して参ります。
			2026 (R8) 予定					0	0	58	0	58	0			
24	医療法人社団恵仁 会 三愛病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	52	0	52	43	0	0	52	0	52	—	内科、循環器内 科、呼吸器内 科、アレルギー 科、消化器・肝 臓内科、糖尿 病・代謝内科、 血液内科、腎臓 内科、心臓血管 外科、泌尿器 科、泌尿器科(腎 臓・透析・性感 染症)	<ul style="list-style-type: none"> ・透析用監視装置を143台有し、日中・中間・夜間の3クール体制で約450人の透析患者が(1日約220人)主に週3回の血液透析治療を受けている。 ・透析患者の多くは合併症を抱えており、循環器内科や心臓血管外科を含む11の診療科で対応している。 ・透析予防診療チームによる糖尿病教室や腎臓病教室を定期開催し、透析予防に関する指導を行っている。 ・(高度)急性期を経過した患者を受入れて、在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供している。また、他の医療機関との連携や介護・福祉施設等への退院支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の役割を引き続き担っていく。
			2026 (R8) 予定					0	0	52	0	52	0			
25	医療法人共生会松 園第二病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	59	30	89	83	0	0	59	30	89	—	内・消内・循内・ 糖内・呼内・リ ウ・整形・耳鼻	<ul style="list-style-type: none"> ○地域密着型で内科・消化器科・整形外科を中心に診療を行い、予防から介護まで包括的にサポートしています。 ○かかりつけ医機能として、健康診断結果の相談、専門医療機関への紹介、介護保険や福祉サービスの相談、予防接種対応など、地域住民の健康管理を総合的に支援しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院として、増加する高齢者救急の受入れ体制を維持しつつ、回復期・慢性期機能を強化し、在宅医療・介護との連携を拡充することで、当該エリアの地域包括ケアシステムの中核を担う。 ・令和8年度までに、当院の病床機能を検討する
			2026 (R8) 予定					0	0	59	30	89	0			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
			一般	療養	計										
26	国民健康保険葛巻病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	60	0	60	37	0	0	48	0	48	内、外、小、産婦、眼	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で唯一の医療機関であり、一般病床と地域包括ケア病床における回復期機能を有している。 ・救急告示病院として、365日24時間初期救急対応を行っている。 ・在宅療養支援病院として、往診や訪問診療、訪問看護、訪問リハビリを行っている。 ・生活習慣病予防等の疾病予防として、医師による町の健康講話など町の保健活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期機能の維持・充実のため地域包括ケア病床の増床を含む運用の検討。 ・町と連携した人材確保と積極的な人材育成支援。 ・健康寿命延伸を図るため、町の保険事業との連携強化。 ・地域包括ケアシステムの拠点病院として、町や関係機関との更なる連携を図る。
			2026 (R8) 予定					0	0	48	0	48			
27	鶯宿温泉病院	救急告示 ／	2025 (R7) 調査	0	88	88	88	0	0	0	88	88	内、外、整形外科、リウ、リハ、消、循、麻	<ul style="list-style-type: none"> ・雫石町、西和賀町地区を中心に地域住民のかかりつけ医としての役割。 ・救急告示病院に認定され、地域の二次救急病院（当番病院）の役割を担っている。 ・また近隣介護施設等の協力病院を担い救急の受入れ及び診療所等の後方支援（入院受入れ）を担当。 ・整形外科及び麻酔科並びにリハビリテーション科領域を中心とした医療提供を行っている。 ・入院はリハビリや人工呼吸器等の対応も可能。長期に渡る療養や介護を目的とした患者の受入れ。 ・地域包括ケア病床（14床）によりポスト及びサブアキュートの回復期機能を担っている。 ・療養型介護老人保健施設を併設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域に根ざした医療提供とリハビリテーションや医療依存度の高い入院患者に対応し、地域住民や介護施設等のサブアキュートを担っていく。 ・在宅医療の拡充を推進し、限られた病床の効率化を図る。
			2026 (R8) 予定					0	0	0	88	88			
28	医療法人社団愛和会 盛岡南病院		2025 (R7) 調査	164	0	164	169	0	0	0	164	164	内、外、整形、リハ	<ul style="list-style-type: none"> ・県内最大規模の164床の医療療養病床を有し、岩手県全域からの入院要請にも対応。 ・リハビリにも力を入れ、在宅復帰率の向上を目指しつつ、市内の介護・福祉施設や個人在宅への訪問診療を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストアキュート患者の受入を従来通り、断らず受け入れ、サブアキュート患者（自院の訪問診療患者、近隣の介護施設の利用者）の受入、在宅復帰を強化していく。 ・在宅復帰強化の為に、リハビリや摂食機能療法を強化していく。
			2026 (R8) 予定					0	0	0	164	164			
29	医療法人仁妙光会 洪民中央病院		2025 (R7) 調査	0	117	117	103	0	0	0	117	117	内、外、整形	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期以後の慢性期疾患の治療と療養を目的とした患者の受入れ。病状安定期において医学的管理のもと長期に渡る療養や介護を目的とした患者の受入れ。地域住民の「かかりつけ医」としての役割を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期以後の慢性期疾患の治療と療養を目的とした患者の受入れ。病状安定期において医学的管理のもと長期に渡る療養や介護を目的とした患者様の受入れ。地域住民の「かかりつけ医」としての役割を担っていく。
			2026 (R8) 予定					0	0	0	117	117			
30	みちのく療育園メディカルセンター		2025 (R7) 調査	60	0	60	60	0	0	0	60	60	内、精、小、耳、リハ、歯、整	<ul style="list-style-type: none"> ・全域の重症心身障害者と発達障害児（者）のための福祉と医療、療育の重要な拠点施設として関連する保健、医療、福祉施設と連携して障がいのある人々の支援を総合的に実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を利用する障がい児（者）は、入所、通所、（入院、外来診療）ともに高齢化の傾向にあるので、各年代に相応した施設の整備と診療内容をも、人員共に拡充していく必要がある。ハード面、ソフト面共に計画的に充実して行きたい。
			2026 (R8) 予定					0	0	0	60	60			

No.	医療機関名	救急告示 ／ 二次救急	許可病床 (一般・療養)				病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性
			許可			最大 使用 病床	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計	介護 医療 院			
			一般	療養	計										
31	岩手県立療育センター		2025 (R7) 調査	60	0	60	41	0	0	0	48	48	—	小、整形、児精、 神内、泌、眼、 耳、歯、リハ ・平成30年1月に矢巾町へ新築移転となり、超重症児（者）等の受入れに対応したハード・ソフト面での体制整備及び診療科の増設による診療体制の充実、隣接する県立となん支援学校との連携について機能強化を図った。医療型障害児入所施設、児童発達支援センター、児童発達支援・生活介護事業所、岩手県発達障がい者支援センター、障害者支援施設を併設した多機能型の施設であり、岩手県の障がい児（者）療育の中核施設である。	基本的には現在と変更はないが、新築移転に伴う設備及び機能の充実に伴い、本県の障がい児（者）療育の中核機能を担う施設として、より高度な小児医療連携体制と重症心身障がい児（者）への支援体制を目指すことから、それぞれの機能が総合的・効率的に連携が図られるように各種委員会等により運営体制の安定に向けた検討を行っていく。
			2026 (R8) 予定					0	0	0	48	48	0		
合計又は平均		21 ／ 11	2025 (R7) 調査	4,357	816	5,173	4,716	1,202	1,303	1,243	1,130	4,878	0	※稼働病床に対する利用率及び平均在院日数については、みちのく療育園メディカルセンター及び岩手療育センターを除く ※令和7年7月1日時点から許可病床数が増えとなった医療機関は、現時点の許可病床数をカッコ書きで記載。合計は直近の状況を把握するため、カッコ書きの数字を使用。	—
			2026 (R8) 予定					1,108	1,304	1,290	1,076	4,778	0		
			増減					-94	1	47	-54	-100	0		

盛岡構想区域における地域医療構想に係る具体的対応方針 集計（有床診療所）

※令和7年度7月1日時点

No.	医療機関名		許可病床				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
			一般	療養	計										
1	産婦人科吉田医院	2025 (R7) 調査	17	0	17	7	0	7	0	0	7	—	産婦 妊産婦の健診、分娩、産後ケア、住民検診、予防接種、 婦人科疾患対応、性教育講演、周産期連携医院	少子化と相反して妊娠中から産後にケアが必要な方が 増加している。妊娠中から産後1年までの母親の死亡 原因の1位が自殺となっており、特に産後ケアの重要 性が全国的に認知されているので、当院でも行政との 連携を強化して自院でも産後ケア事業に貢献していく 方針です。	
		2026 (R8) 予定					0	7	0	0	7	0			
2	みうら産婦人科医院	2025 (R7) 調査	16	0	16	16	0	16	0	0	16	—	産婦 ・周産期母子医療、婦人科医療、女性のヘルスケア ・妊婦健診、乳児健診、産前産後のサポートを行ってい る。	・地域医療に貢献し、産後ケア事業にも積極的に取り 組んでいく。	
		2026 (R8) 予定					0	16	0	0	16	0			
3	鈴木肛門外科・守口 内科	2025 (R7) 調査	6	0	6	6	0	6	0	0	6	—	肛外 主に肛門疾患の術前術後管理に病床を利用し急性期医 療を担っている。	平日最大3～4名の日帰り手術を行っている。術後 急変に対する病床も必要であるが、稼働病床数減少の ため、6床から5床に削減。 ※令和7年9月1日病床削減済。	
		2026 (R8) 予定					0	5	0	0	5	0			
4	黒川産婦人科医院	2025 (R7) 調査	15	0	15	15	0	15	0	0	15	—	産婦 ・周産期医療のローリスク分娩取扱施設として、妊婦健 康診査や妊娠期/分娩期/産褥期の入院管理を行ってい る。 ・生殖医療に携わっている医師による不妊検査やカウ ンセリングなどを行い、その後の治療へスピーディーに移 行できるよう取り組んでいる。 ・婦人科診療、子宮頸がんワクチン接種、子宮がん検診 など、女性特有の症状への対応や予防医療に取り組んで いる。	・昨年と同様に市町村と連携して産後ケア事業の委託 に積極的に取り組み、育児支援が必要な母親に対して 退院後にも継続して母子への支援ができるように取り 組んでいきたい。 ・生殖医療へのニーズに対応するため、女性と男性の 不妊検査ができるように設備を整えていく予定です。	
		2026 (R8) 予定					0	15	0	0	15	0			
5	しんたろうクリニック	2025 (R7) 調査	11	0	11	11	0	6	0	0	6	—	肛・外・内・胃・皮 肛門疾患の術後の経過観察をを中心とした入院となっ ている。	有床診療所として現在の機能を継続予定。	
		2026 (R8) 予定					0	6	0	0	6	0			

No.	医療機関名		許可病床				病床機能					診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高 度 急 性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	計				介 護 医 院
			一 般	療 養	計										
6	村井産婦人科小児 歯科医院	2025 (R7) 調査	14	0	14	14	0	14	0	0	14	—	産・婦、歯、小歯 周産期医療と婦人科診療を行っている。周産期医療は、自然分娩となるように妊婦健康診査に取り組んでいるが、緊急帝王切開にも対応できるような環境のため、総合病院への緊急搬送が低い診療所である。産後ケアの他、生まれてくる赤ちゃんは、母体の歯の健康が子供の歯などにも関連しているため、小児歯科診療所を併設で妊娠中の時から歯科診療も積極的に行っている。婦人科診療は、プレコンセプションケアはとても重要であるため、思春期から更年期まで、女性特有の様々な症状で悩む方と向き合いながら診療している。	周産期医療は分娩件数が減少傾向であるが、病床維持し、産前から悩まれる精神的不安や身体的不安を少しでも軽減させ、より産後ケアを重視していく。婦人科診療は女性ホルモンに関連する月経困難症などに悩ませず、それぞれにあったオーダーメイド医療を行っていく。	
		2026 (R8) 予定					0	14	0	0	14	0			
7	ひろし外科肛門科	2025 (R7) 調査	11	0	11	5	0	11	0	0	11	—	肛外 肛門疾患の診断治療	手術が必要な場合は、短期間の入院で緊急事態に対応する体制でいたい。	
		2026 (R8) 予定					0	11	0	0	11	0			
8	おいかわ内科クリ ニック	2025 (R7) 調査	3	0	3	3	0	1	1	1	3	—	内、胃内、神内、 リハ 病床があることで、短期の経過観察や治療で対応できそうな患者の入院に対応できる。そのことで、市立病院の負担軽減に貢献できる。また、外来患者が「入院できる」という安心感を持てる。地域医療の“つなぎ”を担う意味で貢献できていると考えている。	医療保険の点数上、決して十分な判断をいただいているとは思っていないが、国が目指す在宅医療の充実の受け皿のひとつとして、病床を持つクリニックの役割は大きいと自負している。可能な限り継続していきたいと思う。	
		2026 (R8) 予定					0	1	1	1	3	0			
9	今井産婦人科内科 クリニック	2025 (R7) 調査	10	0	10	6	0	6	0	0	6	—	産婦、内、麻 思春期、妊娠期から更年期、老年期までの女性の一生のトータルサポートを心がけている。	令和7年5月以降、分娩の対応をしておりません。有床診療所として、妊娠悪阻、流産手術等、短期の入院に対応してゆく。	
		2026 (R8) 予定					0	6	0	0	6	0			
10	西島産婦人科医院	2025 (R7) 調査	9	0	9	0	0	0	0	0	0	—	産婦 外来のみの予定です。 ※令和5年10月5日から分娩・入院休床		
		2026 (R8) 予定					0	0	0	0	0	0			
11	小笠原眼科クリニッ ク	2025 (R7) 調査	7	0	7	7	0	7	0	0	7	0	眼 眼科医療を通じて地域の急性期機能を担っており、診察治療や手術を行っている。	現在の役割を継続していく予定。	
		2026 (R8) 予定					0	7	0	0	7	0			

No.	医療機関名		許可病床			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高 度 急 性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	計				介 護 医 療 院
			一般	療 養	計										
12	もりおか静眠堂医院	2025 (R7)	2	0	2	2	0	2	0	0	2	—	内科	睡眠障害、睡眠関連疾患、睡眠時無呼吸症候群の診断と治療の為に検査を行う。	上記役割の為に検査入院を行う。
		2026 (R8)					0	2	0	0	2	0			
13	近藤眼科医院	2025 (R7)	18	0	18	7	0	8	0	0	8	—	眼	有床診療所における急性期機能の役割を担っており、手術を実施している。	現在の役割を保ち継続していく。
		2026 (R8)					0	12	0	0	12	0			
14	かなざわ内科クリニック	2025 (R7)	2	0	2	2	0	2	0	0	2	—	内、呼内、アレ	睡眠時無呼吸症候群の診断目的にPSG検査を行っている。検査は入院の形で夜間に行っている。	今後も、睡眠時無呼吸症候群の診断のため、必要なPSG検査を夜間入院の形で行う方針。
		2026 (R8)					0	2	0	0	2	0			
15	細井外科医院	2025 (R7)	14	0	14	0	0	0	0	0	0	—	外	入院の実績はありません。	休棟の継続と考えています。
		2026 (R8)					0	0	0	0	0	0			
16	むらた眼科クリニック	2025 (R7)	2	0	2	2	0	2	0	0	2	—	眼	眼科の救急、術後に対応。	継続
		2026 (R8)					0	2	0	0	2	0			
17	ゆい内科呼吸器科クリニック	2025 (R7) 調査	2	0	2	2	0	2	0	0	2	0	呼、内	無呼吸症候群の検査で、1泊入院を行っています。検査目的のみの入院です	今後も検査入院のみを行う予定です
		2026 (R8) 予定					0	2	0	0	2	0			
18	谷藤眼科医院	2025 (R7) 調査	19	0	19	19	0	19	0	0	19	—	眼	・専門医を担って病院の役割を補完する機能。 ・急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診察・手術・治療等の医療を提供する。 ・インフルエンザ・肺炎球菌等の予防接種医療を行っている。	現行のまま
		2026 (R8) 予定					0	19	0	0	19	0			
19	八幡平市立安代診療所	2025 (R7) 調査	2	0	2	0	0	0	0	0	0	—	内、外	・荒屋新町地域の唯一の診療所として、外来診療を行っている。	休床中の予定である。
		2026 (R8) 予定					0	0	0	0	0	0			

No.	医療機関名		許可病床			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高 度 急 性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	計				介 護 医 療 院
			一 般	療 養	計										
20	雫石町立雫石診療所	2025 (R7) 調査	19	0	19	19	0	19	0	0	19	—	内	・早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡しを行っている。 ・在宅医療の拠点としての機能や終末期医療の機能を担っており、急変時の対応や看取りを行っている。	引続き急性期機能を中心としつつ、地域医療を担う。
		2026 (R8) 予定					0	19	0	0	19	0			
21	佐渡医院	2025 (R7) 調査	4	15	19	0	0	0	0	0	0	—	内、外、脳外、整外、心内	病棟におきまして、令和3年12月20日より19床全て休業に入り、現在に至っています。	入院施設の稼働については、現時点で未定です。
		2026 (R8) 予定					0	0	0	0	0	0			
22	県立中央病院附属沼宮内診療センター	2025 (R7) 調査	19	0	19	0	0	0	0	0	0	—	内、外、整外、リハ	※平成23年4月より休床中 健診、予防接種を中心に地域医療に対応 岩手県立病院の附属として、地域住民の療養フォローを担う	健診、予防接種を中心に地域医療に対応 岩手県立病院の附属として、地域住民の療養フォローを担う
		2026 (R8) 予定					0	0	0	0	0	0			
23	県立中央病院附属紫波地域診療センター	2025 (R7) 調査	19	0	19	0	0	0	0	0	0	—	内、外	休床中	令和8年3月廃止
		2026 (R8) 予定					0	0	0	0	0	0			
24	ふるだて加藤肛門外科クリニック	2025 (R7) 調査	8	0	8	8	0	8	0	0	8	—	肛外	・特殊性が強く、肛門機能に直接反映する肛門分野の診断、治療に当たる肛門病専門医（日本大腸肛門病学会専門医指導医、日本臨床肛門病学会技術認定医指導医）が2人常在し、肛門病に特化した診療を行っている。 ・岩手県では肛門病専門医が少なく、総合病院や外科診療所からの紹介も多く病一診、診一診連携を行っている。 ・近年日帰り手術が主流となっているが、手術創部が大きく出血や疼痛のリスクのある患者や、遠路の患者に入院治療を行っている。	病床数は縮小しない予定。患者ニーズを見ながら入院診療を継続する。
		2026 (R8) 予定					0	8	0	0	8	0			

No.	医療機関名		許可病床			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高 度 急 性 期	急 性 期	回 復 期	慢 性 期	計				介 護 医 療 院
			一般	療 養	計										
25	やはば産婦人科	2025 (R7) 調査	19	0	19	14	0	11	0	0	11	0	産・婦	外来：妊婦健診、婦人科一般、癌検診等 入院：分娩（帝王切開含む）、切迫流早産等	分娩取扱継続の方針
		2026 (R8) 予定					0	11	0	0	11	0			
26	もりおか往診ホーム クリニック	2025 (R7) 調査	19	0	19	18	0	19	0	0	19	—	内	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療支援診療所の届出を行っており、在宅医療拠点としての機能や終末期医療の機能を担っており、急変時の対応や看取りを行っている。 歯科医療機関と連携している。 がん患者の受入れを実施し、診察・治療への対応を行っている。 予防に関する医療を行っている。 認知症の患者の診療を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期機能を中心としつつ、地域で不足すると見込まれる回復期機能を担う。 令和8年度までに、当診療所の病床機能を検討し、盛岡区域の病床数の適正化のため、介護適応病床への転換を検討している。（3床の転換希望を盛岡市介護保険へ申請中）
		2026 (R8) 予定					0	19	0	0	19	0			
27	赤坂医院	2025 (R7) 調査	(19)	0	(19)	0	0	19	0	0	19	—	泌、皮、内、消 内、胃内	<ul style="list-style-type: none"> ※令和7年8月1日開設のため、許可病床、病床利用率、平均在院日数は未記入 泌尿器科を中心に皮膚科、内科、消化器内科、胃腸内科の診療を行っている。 来てよかったと思われる医院を目指している。 特に泌尿器科では専門医療として、医大、県中央病院等からの患者の受入も行っている。 在宅医療支援診療所の届出を行っており、在宅医療拠点としての機能や終末期医療の機能を担っており、急変時の対応や看取りを行っている。 	2025年7月31日に赤坂病院を閉院し、8月1日から有床診療所（19床）を開設しました。地域に密着した「かかりつけ医」の機能を有する診療所にしていきます。
		2026 (R8) 予定					0	19	0	0	19	0			
28	たにむらクリニック	2025 (R7) 調査	12	0	12	12	0	0	0	12	12	—	内、外、乳外、 皮、整外、リハ	<ul style="list-style-type: none"> 甲状腺疾患患者を主として、手術・入院を受け入れている。また、幅広く診療科を設け随時入院対応をしている他、他病院・クリニックからの治療及びリハビリ継続目的の紹介患者を受け入れている。訪問診療を実施し連携している施設からの治療が必要になった在宅療養中の患者の受け入れや、ケアマネージャーや家族からの依頼や相談があればレスパイト入院にも対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各診療科の手術の実施及び入院対応 ②他病院・クリニックからのリハビリ継続・治療目的入院の受け入れ ③治療及びレスパイトが必要な在宅療養患者の入院対応
		2026 (R8) 予定					0	0	0	12	12	0			

No.	医療機関名		許可病床			病床機能						診療科目	病院の役割・特色	今後の方向性	
			許可			最大 使用 病床 数	高度 急性 期	急性 期	回復 期	慢性 期	計				介護 医療 院
			一般	療養	計										
	合計	2025 (R7) 調査	318	15	333	195	0	219	1	13	233	0	※令和7年7月1日時点から許可病床数が変更となった医療機関は、現時点の許可病床数をカッコ書きで記載。合計は直近の状況を把握するため、カッコ書きの数字を使用。		
		2026 (R8) 予定				0	222	1	13	236	0				
		増減				0	3	0	0	3	0				
	(参考) 病院	2025 (R7) 調査					1,202	1,303	1,243	1,130	4,878	0			
		2026 (R8) 予定					1,108	1,304	1,290	1,076	4,778	0			
		増減					-94	1	47	-54	-100	0			